

館内のご案内

戦前から戦後に至る満蒙開拓の歴史をコーナーごとにテーマを設け紹介し、時系列に辿っていきます。戦争や「満州」を知らない世代も写真や資料、映像であの時代、彼の地にいざなう工夫をしています。満蒙開拓体験者による証言は「読む(文章)」「観る(映像)」という二つの表現をしました。また、「平和な未来へ」のコーナーにはメッセージボードがあり来館者の感想を掲示しています。観る。聞く。読む。触れる。参加する。平和への願いを皆さんと共有したいと思います。



1 序章 時代を知るタイムトンネル

現代から戦前・戦中へ、日本から「満州」へといざなうタイムトンネル。左壁面では日本が戦争へ向かう足どりを年表と戦時中ポスターで辿り、右壁面では満蒙開拓が国策として推進され人々が満州へ渡っていく背景を資料などで伝えます。



2 大陸へ 映像で見る満州

2.5×5メートルの壁に映し出される赤い夕陽と広大な大地。満州の風景と開拓団の人々の様子を当時の映像と写真で紹介します。



3 新天地満州 希望の大地

各開拓団が入植した地点を表示した「満州開拓民入植図」を大きくパネルにしました。青少年義勇軍のコーナーには、学校から送り出される様子や内原訓練所の写真、教本、満州から送られたハガキなど寄贈資料が並んでいます。

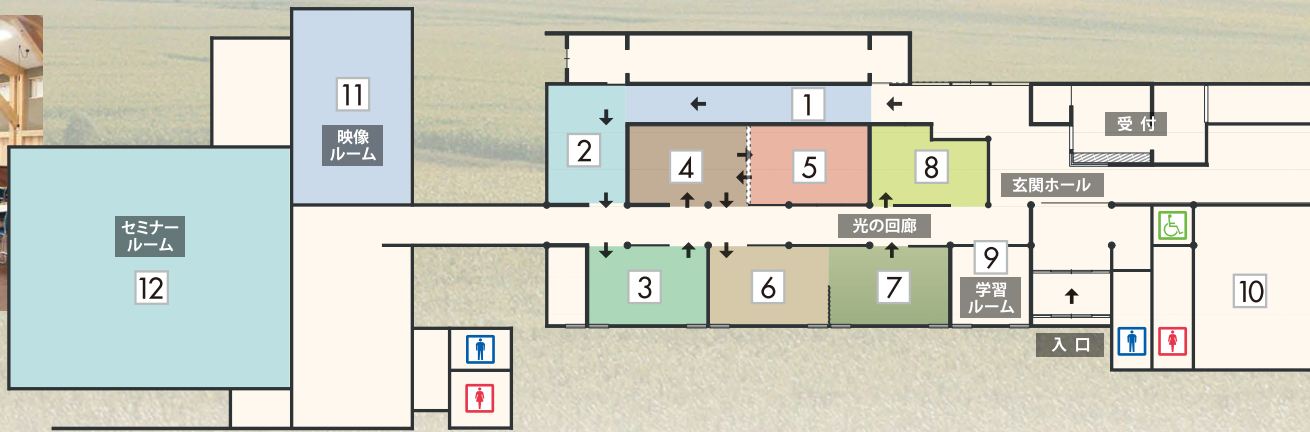


4 敗戦と逃避行 絶望の彷徨

凄惨を極めた逃避行や収容所生活などを、絵画を交えて伝えます。回転型地図テーブルのソ連侵攻ルートや関東軍の戦略地図などが、開拓団が置かれた状況をものがたっています。



セミナールーム



5 証言 それぞれの記憶

満蒙開拓体験者が語るそれぞれの記憶の一部を文章にしました。年表にも教科書にも載っていない一人ひとりの歴史に向き合い寄り添う空間です。



光の回廊

6 引揚げ・再出発 失意の帰還

終戦の翌年、1946年から始まるコロ島からの引揚げの様子を、飯山達雄氏の写真15枚で紹介しています。そのほか、シベリア抑留体験のスケッチや国内での再入植など、戦後も続いた苦労を知ることができます。



7 望郷 山本慈昭と残留孤児

中国残留孤児の帰国支援事業を国に先駆けて推進した、地元阿智村長岳寺の元住職、故山本慈昭の活動の記録を紹介したコーナーです。残留孤児からの手紙を展示しています。今日まで続く満蒙開拓の歴史、戦争が人々の人生に残した傷跡を見つめます。



8 平和な未来へ 今、私たちができること

満蒙開拓体験者からのビデオメッセージが流れる中、展示の感想を書いていただくコーナーです。感想用紙が貼られたボードは来館者が創り出す「もう一つの展示」であり、思いを共鳴する場となっています。



9 学習ルーム

調べ物をしたり貴重な資料の閲覧ができます。

10 図書ルーム (2020年2月～)

「満州」に関わる様々な本を読めるスペースです。

11 映像ルーム

体験者の証言映像をリポート上映しています。

12 セミナールーム

120席収容可能。講話やワークショップ、映像視聴など多目的に使えるホールです。